



DRX5002 接続ガイド

1.1版

目次	P1
1. 本書について	P2
2. 同梱物の確認	P3
3. 端末仕様	P4
4. 各部名称について	P5
5. SIMカードについて	P7
6. 環境設定	P9
7. 初期設定	P13
8. [SIM2枚構成] 接続設定	P18
9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定	P30
10. [SIM1枚構成(NTTCプロファイル)] 接続設定	P42
11. その他機能設定	P45
12. 困ったときには	P50
13. お問い合わせ窓口	P51

1. 本書について

このたびは、弊社モバイルサービスをご利用いただき、誠にありがとうございます。
ご利用の前に、あるいはご利用中に、本書「接続ガイド」をよくお読みいただき、正しくお使いください。

ご不明な点がございましたら、本書記載の「[1.3. お問い合わせ窓口](#)」をご確認いただきお問い合わせください。「[1.2. 困ったときには](#)」にも、よくお問い合わせいただく内容一覧をまとめておりますので、ご活用ください。

弊社モバイルサービスをビジネスツールとして、未永くご愛用いただけると幸いです。

● 本書の扱いについて

- 本書の一部または全部をNTTコミュニケーションズ株式会社の許可なく複製・複製・転載することを禁じます。
- 本書の内容は予告なく変更することがあります。
- 本書における記述は、情報を提供する目的で記載したもので、保証するものではありません。

● 商標および登録商標について

- IoT Connect Mobile Type S は、NTTコミュニケーションズ株式会社の商標です。
- Google Chrome は、Google Inc. の登録商標です。
- Microsoft、Windows、および Microsoft Edge は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
 - Windowsの正式名称は、Microsoft® Windows® Operating Systemです。
-  とフリーダイヤルは登録商標です。
- その他、記載された商品名及び会社名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- 本文中の各社登録商標または商標には、一部®マーク等は表示していません。

● 最新版の接続ガイドの提供について

最新版の接続ガイドは、以下のURLよりダウンロード可能です。

https://sdpf.ntt.com/services/docs/icms/service-descriptions/icms_function/icms_function.html#brandname

● DRX5002の製品マニュアル（取扱説明書）について

メーカーの最新マニュアル（取扱説明書）を以下のURLよりダウンロード可能です。

本書と合わせてご覧ください。

<https://www.sun-denshi.co.jp/sc/down.html>

2. 同梱物の確認

お手元に届いた個装箱に以下の物品が同梱されていることをご確認下さい。

※接続に必要なとなるその他物品（接続設定用PC、イーサケーブル等）は、お客様でご準備下さいますようお願いいたします。

●同梱物一覧

品名	型番	外観	個数
LTE デュアルSIM M2Mルータ	DRX5002		1
ACアダプタ	ADP-30FW		1

3. 端末仕様



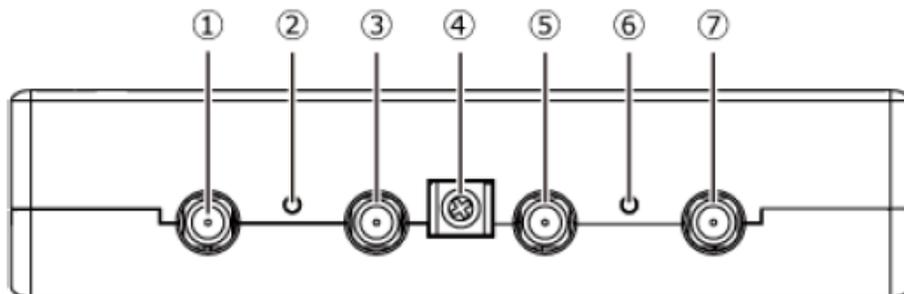
DRX5002 本体

機種名	DRX5002 (サン電子社製)
アクセス方式	LTE
提供形態	お買い上げ
形状	LTE デュアルSIM M2Mルータ
イーサネット	10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-TX×2ポート (MDI/MDI-X 自動判別)
無線インターフェース	B1(1920~1980MHz(UL)、2110~2170MHz(DL)) B8(880~915MHz(UL)、925~960MHz(DL)) B18(815~830MHz(UL)、860~875MHz(DL)) B19(830~845MHz(UL)、875~890MHz(DL)) B39(1880~1920MHz(UL)、1880~1920MHz(DL))
通信速度 ※1	上り：最大50Mbps/下り：最大150Mbps
対応ブラウザ	Google Chrome 上記以外のブラウザでは、正常に動作しない可能性あり
音声通話	非対応
無線LAN	なし
電源	電圧：DC 5~27.4V (±5%) 消費電流： 待受時：約300mA(DC12V) 通信時：約380mA(DC12V) 通信時最大：約800mA(DC12V) 消費電力：12W(最大)/5W(平均)/0.8W(おやすみモード)
動作環境	動作温度： -20℃~+65℃ 動作湿度： 25%~85% (結露なきこと)
寸法	約 128(W) × 81.2(D) × 29.3 (H) mm (突起部、取付金具除く)
質量	約240g (本体のみ)
アンテナ	内蔵 ただし、金属製ボックスにDRX5002本体を納める場合など内蔵アンテナで通信が困難な場合、別売の外部アンテナの接続が可能

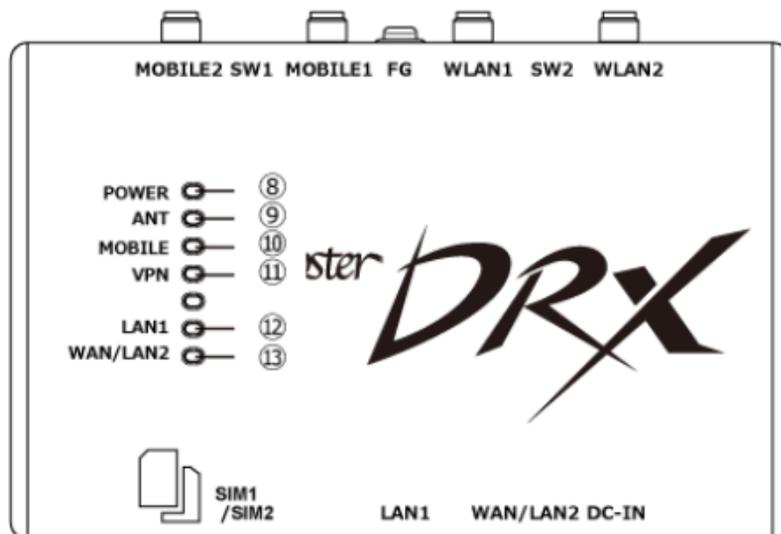
※記載の最大通信速度は技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。
実際の通信速度は通信環境やネットワークの混雑状況により変化します。

4. 各部名称について

DRX5002 本体の各部名称と機能

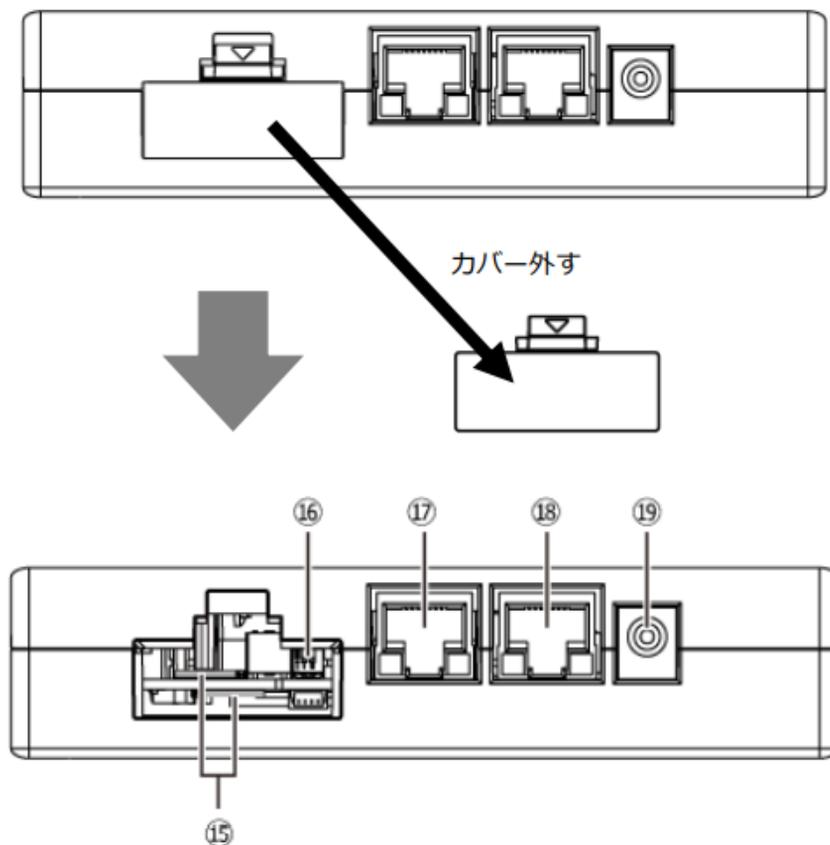


① MOBILE2 コネクタ (SMA)	外部アンテナ (モバイル通信用) を接続します。 外部アンテナは必ず対応のアンテナを2本接続して使用してください。 ※ 外部アンテナは別売です
② SW1 スイッチ ⑥ SW2 スイッチ	SW1 スイッチを先の細いピンなどを使って3秒以上押し続けると、シャットダウンします。 SW1 スイッチと SW2 スイッチを同時に3秒以上押し続けると、一旦全点灯 (ANT 赤以外) した後、WLAN ランプ、VPN ランプ、MOBILE ランプ、ANT 緑ランプの順で消灯し、工場出荷時の設定に戻り、再起動します。
③ MOBILE1 コネクタ (SMA)	外部アンテナ (モバイル通信用) を接続します。 外部アンテナは必ず対応のアンテナを2本接続して使用してください。 ※ 外部アンテナは別売です
④ FG 端子	アース線を接続します。
⑤ WLAN1 コネクタ(無線 LAN)	なし (DRX5002は無線LAN非対応)
⑦ WLAN2 コネクタ(無線 LAN)	なし (DRX5002は無線LAN非対応)



⑧ POWER ランプ	DRX5002 の通電状態が表示されます。
⑨ ANT ランプ	電波状態を表示します。
⑩ MOBILE ランプ	モバイル通信端末の動作状態が表示されます。
⑪ VPN ランプ	VPN セッション (IPsec、PPTP、LT2TP/IPsec) の動作状態が表示されます。
⑫ LAN1 ランプ	LAN1 ポート (⑰) へのLAN 接続機器の接続状態が表示されます。
⑬ WAN / LAN2 ランプ	WAN/LAN2 ポート (⑱) へのWAN/LAN 接続機器の接続状態が表示されます。

4. 各部名称について



⑮ SIM カード挿入口 (上: SIM1、下: SIM2)	nano SIM カード (12.3×8.8mm) を挿入します。 挿入口は上下各1つずつあり、2枚のSIM カードを挿入できます。
⑯ DIP スイッチ	拡張用
⑰ LAN1 ポート	LAN ケーブルでLAN 接続機器、ハブなどを接続します。
⑱ WAN/LAN2 ポート	LAN ケーブルでWAN 接続機器やLAN 接続機器、ハブなどを接続します。
⑲ DC IN コネクタ	DC 電源プラグを接続します。

5. SIMカードについて

(1) IC部分の取り外し方

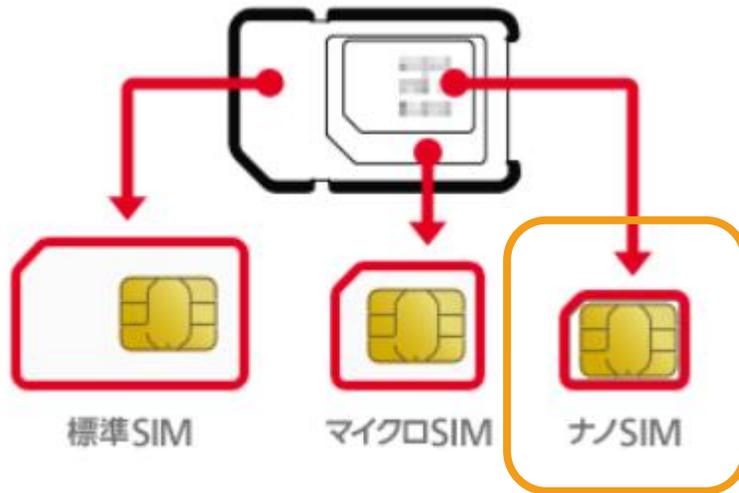
* IC部分に触れないように手袋などを着用して、SIMカードを取り外してください。
IC部分に直接触れてしまった場合は乾いた柔らかい布などで拭いてからご使用ください。

■ マルチカットSIMカードの扱いについて

マルチカットSIMカードを本商品へ取り付けや取り外す際は、必要以上の力を加えないでください。手や指を傷つけたり、故障の原因となることがあります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください、誤って飲み込むなど、事故やけがの原因となります。

「マルチカットSIM」は任意のサイズにカットでき、「標準SIM」、「microSIM」、「nanoSIM」の3サイズに対応します。

本商品では「nanoSIM」となりますので、切り目に沿ってカットしてください。



(2) SIMカードのプロファイル種別の見分け方

IoT Connect Mobile Type S のSIMに印字されている「ハードウェアシリアル番号(HSN)」で初期プロファイルの種別を識別できます。

HSN 上3桁	001	➔	TSLプロファイル
	003		
	005		
	007		

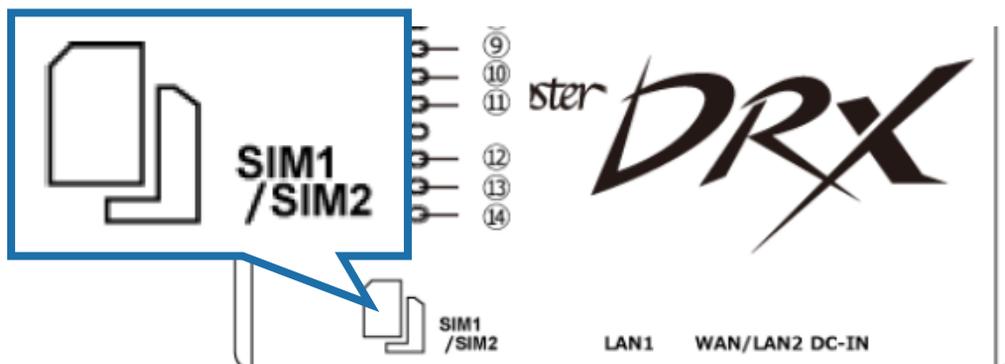
HSN 上3桁	009	➔	NTTCプロファイル
	010		
	011		
	012		
	013		
	014		
	015		
	016		

※ プロファイル切り替えを実行されたSIMでは上記方法による識別ができませんのでご注意ください。

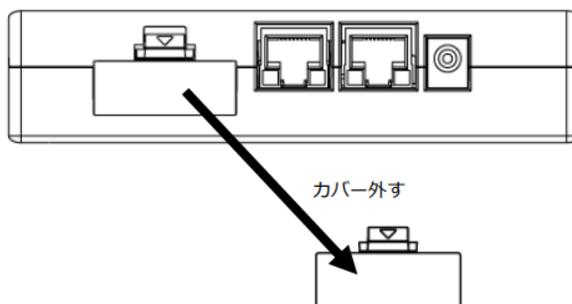
5. SIMカードについて

(3) SIMカードの挿入方法

- ① SIM カードの挿入口を確認します。SIM の挿入口は、DRX5002 本体の側面にあり、天面には挿入口を示すSIM のイラストが印字されています。

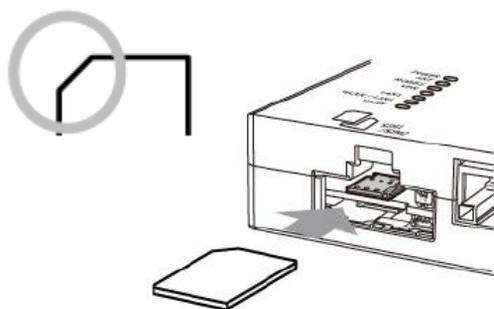


- ② SIM 挿入口のカバーを外します。

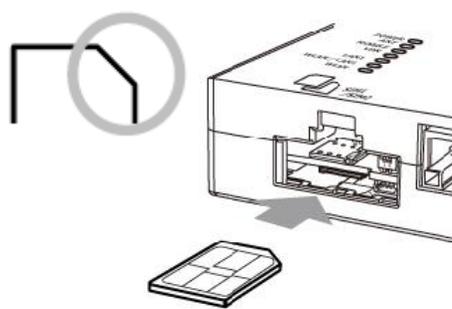


- ③ SIM の挿入口は2つあり、上部のSIM1 と下部のSIM2 に分かれています。SIM カードは、本体に表示されているSIM のイラストと同じ向きで「カチッ」と音がし、ロックされるまで挿入してください。

SIM1 の挿入口に入れる場合



SIM2 の挿入口に入れる場合



6. 環境設定

6-1. 接続方法

- ① DRX5002 と設定用PCの電源が入っていないことを確認してください。
- ② LAN1 ポートにクライアントとなる設定用PCを接続してください。
※ LAN ケーブルは、カテゴリ5e 以上で通信速度に対応したケーブルをご利用ください。
- ③ DRX5002 の電源コネクタに電源プラグを接続してください。
- ④ AC アダプタをコンセントに接続してください。
※電源は、指定(オプション品)のもの、またはDRX5002 の電源規格に合ったものを使用してください。それ以外の電源を使用すると、故障・誤作動の原因になります。
- ⑤ 設定用PCの電源を入れてください。



6. 環境設定

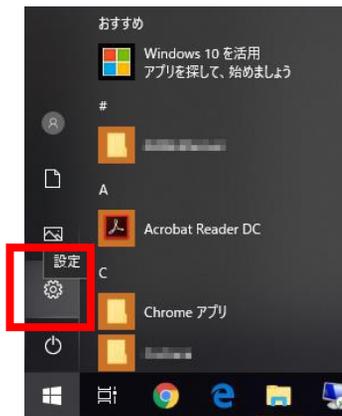
6-2. パソコンの設定

DRX5002にアクセスできるように、設定用PCにDHCPクライアントの設定をします。本書ではWindows10の設定画面にて説明します。設定用PCには管理者権限でログインしてください。

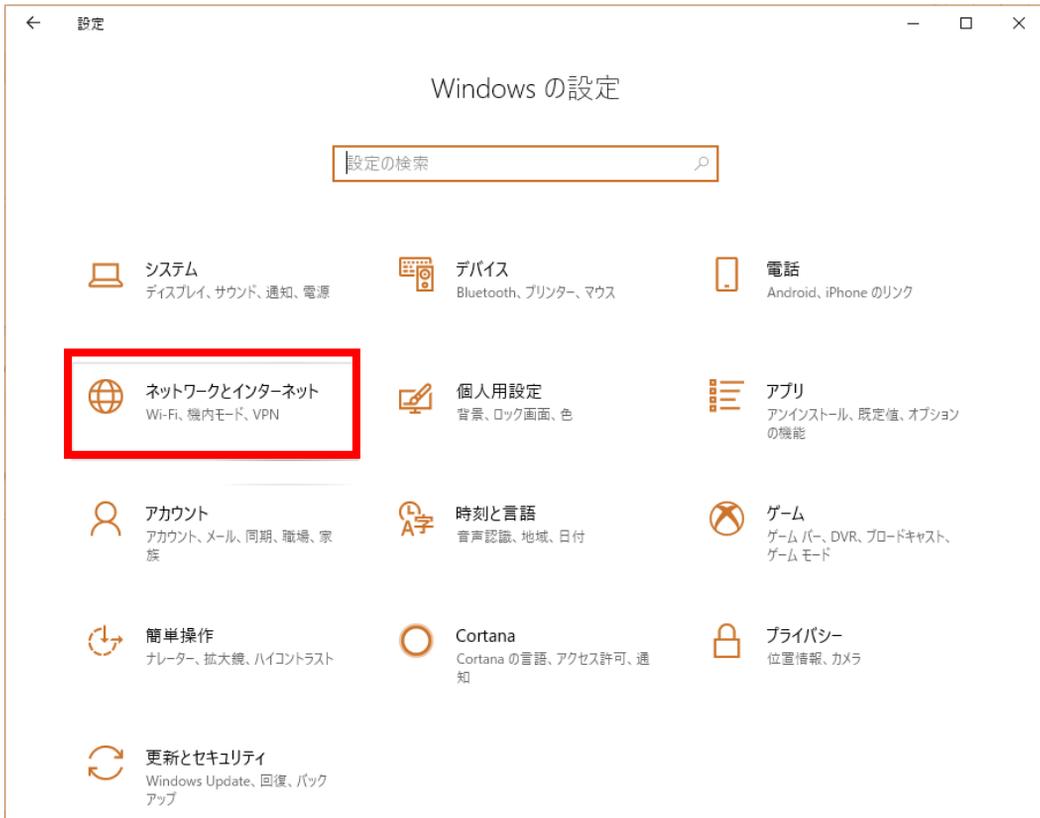
<必要な環境>

- TCP/IP が利用できるOS（Windows、MacOS、各種UNIX など）を搭載し、イーサネットポートを搭載したパソコン
 - ・ LAN ケーブル
 - ・ Google Chrome のブラウザ
- 上記以外のブラウザでは、正常に動作しない可能性があります。

① スタート画面から [設定] を開きます。



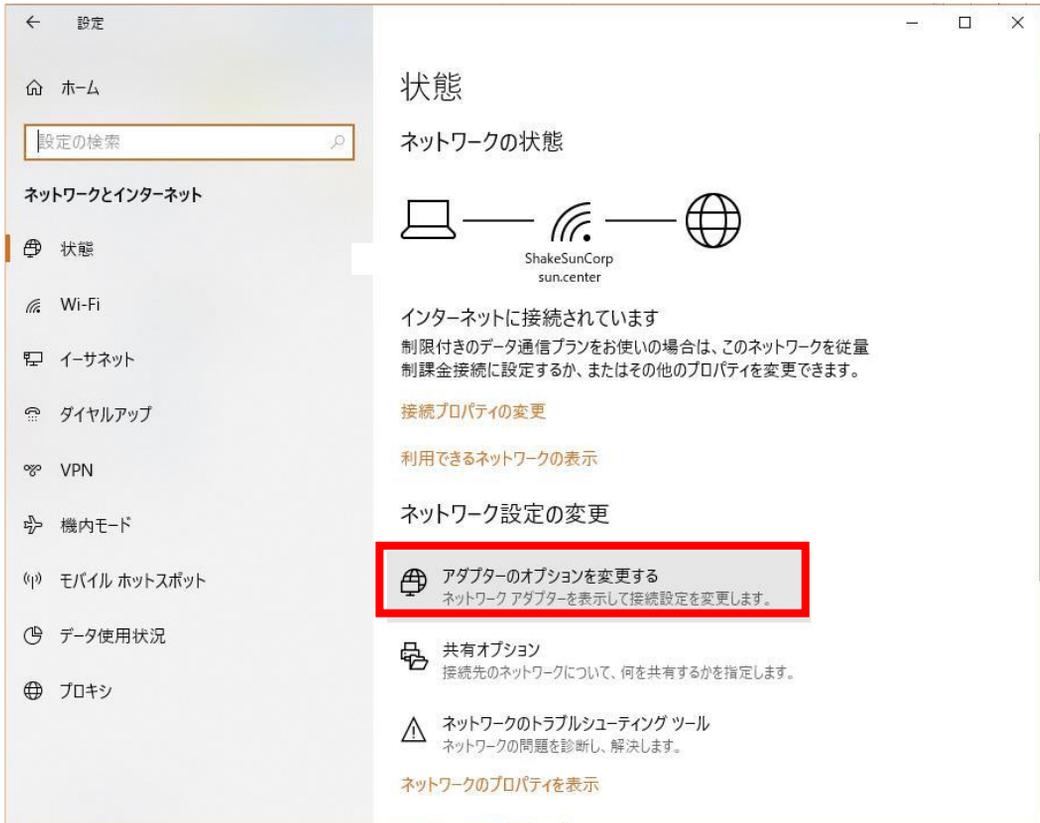
② [ネットワークとインターネット] を開きます。



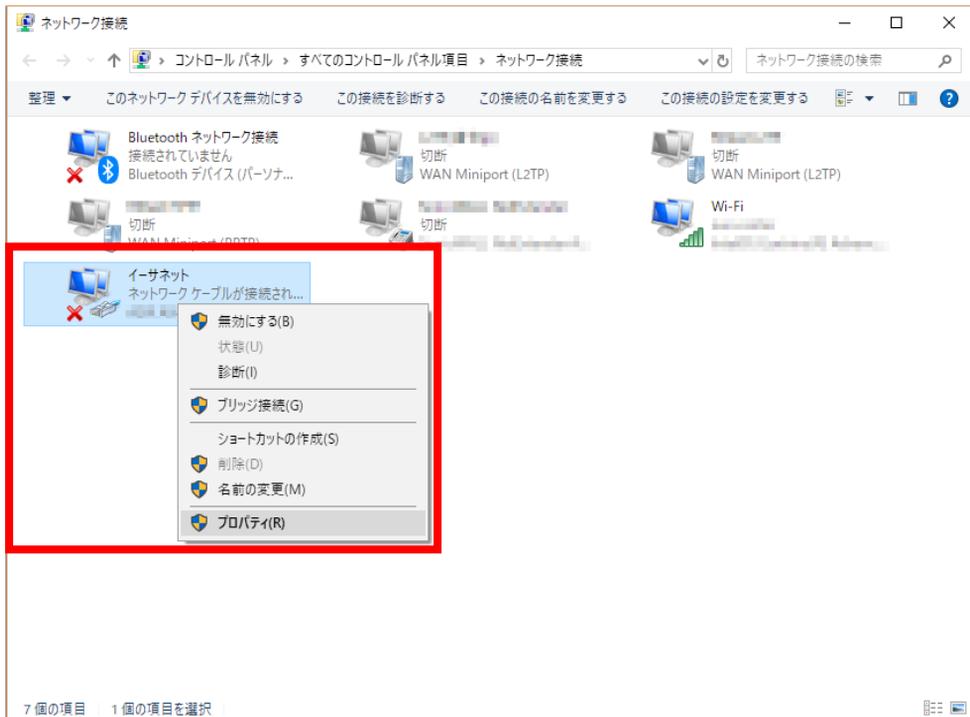
6. 環境設定

6-2. パソコンの設定

③ 「ネットワークの状態」から [アダプターのオプションを変更する] を開きます。



④ [イーサネット] を右クリックし、 [プロパティ] をクリックします。

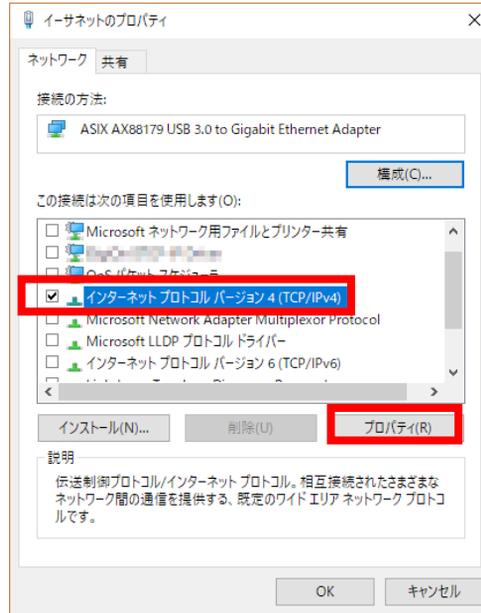


6. 環境設定

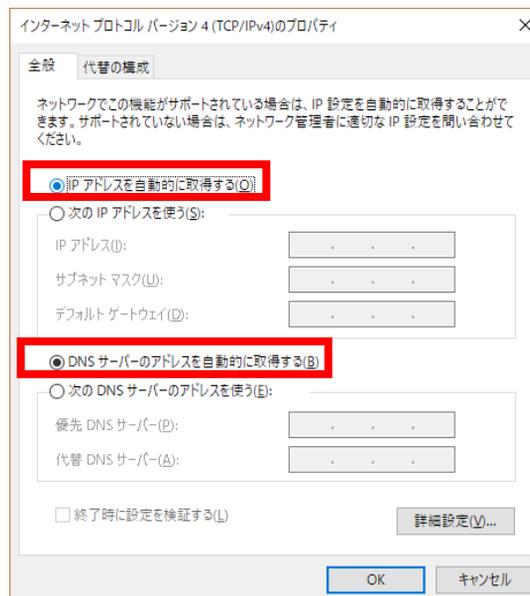
6-2. パソコンの設定

- ⑤ [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)] を選び、[プロパティ] ボタンをクリックします。

インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4) のプロパティが表示されます。



- ⑥ [IP アドレスを自動的に取得する]、[DNS サーバのアドレスを自動的に取得する] を選択します。



- ⑦ [OK] ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

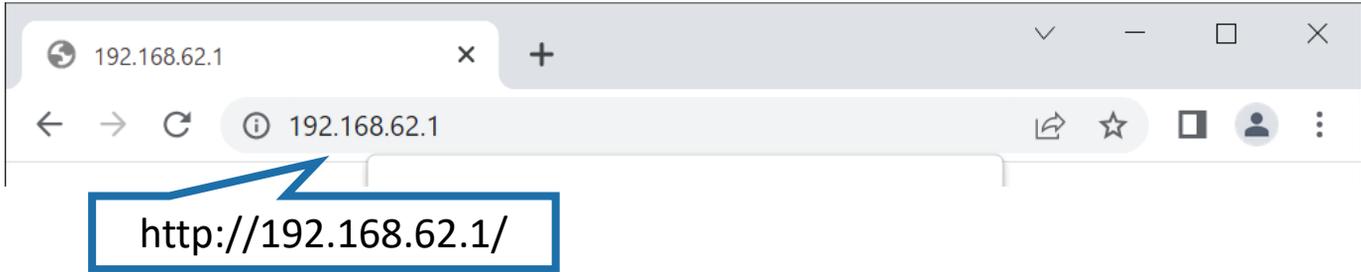
「ローカルエリア接続のプロパティ」画面も、[OK] ボタンをクリックして閉じます。

7. 初期設定

7-1. Web設定ツールへのログイン

以下の手順を参考に、Web設定ツールへログインしてください。

- ① WWWブラウザを起動し、ブラウザのアドレス入力欄に、DRX5002 のLAN 側IP アドレス「http://192.168.62.1/」（工場出荷時状態）を入力し、Enter キーを押します。



- ② ダイアログボックスが表示されたら、ユーザー名に「root」、パスワードに「root」（工場出荷時状態）と入力した後、[OK] ボタンをクリックします。

A screenshot of a login dialog box. The title is 'ログイン'. Below the title, it shows the URL 'http://192.168.62.1' and a warning: 'このサイトへの接続ではプライバシーが保護されません'. There are two input fields: 'ユーザー名' (Username) with the text 'root' and 'パスワード' (Password) with four dots. At the bottom, there are two buttons: 'ログイン' (Login) in blue and 'キャンセル' (Cancel) in white.

- ③ パスワードを工場出荷状態の設定から変更していない場合、パスワード変更画面が表示されます。

新しいパスワードを 8 文字以上で設定して「変更」をクリックします。

「後で変更」ボタンをクリックしても次の画面に進みますが、パスワードを変更するまでログイン後にパスワード変更画面が表示されます。

パスワードを変更した場合、再度ログインダイアログボックスが表示されます。
新しく設定したパスワードで再度ログインします。

パスワード変更

パスワードが初期設定のままとなっているため、パスワードの変更をお願いいたします。
安心、安全にご使用いただくために、変更をお願いしております。

新しいパスワード:

再入力:

変更

後で変更

7. 初期設定

7-2. LAN/WAN設定

■ LAN設定

DRX5002 のLAN 側IP アドレスを変更する場合に設定を行います。
工場出荷時状態のLAN 側IP アドレスは「192.168.62.1」に設定されています。

- 1 設定ツールのメニューから、[インターフェイス] - [LAN] をクリックします。
「LAN 側設定」のページが表示されます。

インターフェイス

インターフェイスの各設定を行います。

LAN

1

- LAN側の各設定を行います。

The screenshot shows the LAN configuration page. It features three input fields: 'IPアドレス' (IP Address) with the value '192.168.62.1', 'サブネットマスク' (Subnet Mask) with the value '255.255.255.0', and 'リンクモード' (Link Mode) with a dropdown menu set to '自動' (Automatic). Below these fields is a '設定' (Apply) button. Red boxes and numbered circles (2, 3, 4) highlight the IP and Subnet Mask fields, the Link Mode dropdown, and the Apply button, respectively.

- 2 [IP アドレス]、[サブネットマスク] に、新しく設定する DRX5002 のLAN 側IP アドレス、サブネットマスクを入力します。
- 3 [リンクモード] に、以下の項目のいずれかを設定します。
 - ・ 自動
 - ・ 1000Mbps-Full
 - ・ 100Mbps-Full
 - ・ 10Mbps-Full
- 4 [設定] ボタンをクリックして、設定を反映させます。

7. 初期設定

7-2. LAN/WAN設定

■ WAN設定

DRX5002 のWAN 側のネットワーク設定を行います。

- ① 設定ツールのメニューから、[インターフェイス] - [WAN] をクリックします。
「WAN 側設定」のページが表示されます。

インターフェイス

インターフェイスの各設定を行います。

WAN側設定

①

WAN側の各設定を行います。

The screenshot shows the WAN configuration interface. A red rectangular box highlights the main configuration area, which includes the following elements:

- Four radio button options: IP自動取得, IP手動設定, PPPoE接続, and LANとして使用.
- Input fields for: IPアドレス, サブネットマスク, ゲートウェイ, DNSサーバ1, DNSサーバ2, ID, パスワード, and サービス名.
- A dropdown menu for リンクモード, currently set to 自動.
- Two checked checkboxes: NATを使用する. and デフォルトゲートウェイとして使用する.

②

設定

③

- ② ご利用環境に合わせ設定してください。
※ IPアドレスは、自動取得（工場出荷時状態）でも接続可能です。
- ③ [設定] ボタンをクリックして、設定を反映させます。

7. 初期設定

7-3. モバイル通信端末基本設定

DRX5002 ではモバイル通信を行う場合、モバイル通信端末の設定が必要になります。

- ① 設定ツールのメニューから、
[インターフェイス] - [モバイル通信端末] をクリックします。
「モバイル通信端末」のページが表示されます。

インターフェイス

インターフェイスの各設定を行います。

モバイル通信端末 ①

- モバイル通信端末の設定を行います。

モバイル通信を使用する。 ②

デフォルトゲートウェイとして使用する。 ③

設定項目	状態			操作
プロファイル	未設定			設定
SIM	SIM 1	有効	ローミング	設定
	SIM 2	無効	ローミング	
WakeOn着信	無効			設定
アンテナ	内部アンテナ			設定

④

- ② [モバイル通信を使用する] のチェックをオンにします。
- ③ デフォルトゲートウェイとして使用する場合は、[デフォルトゲートウェイとして使用する] のチェックをオンにしてください。
- ④ [設定] ボタンをクリックします。

7. 初期設定

7-3. モバイル通信端末基本設定

以降のモバイル通信設定につきましては、ご利用構成により設定手順が異なります。以下を参照してください。

■ SIM 2枚構成でご利用の場合

- ・メインSIM(SIM1) : IoT Connect Mobile Type S NTTCPロファイル
- ・サブSIM(SIM2) : IoT Connect Mobile Type S TSLプロファイル

⇒ [P.18～ 8. \[SIM2枚構成\] 接続設定](#)

■ SIM 1枚構成(TSLプロファイル)でご利用の場合

SIM1 : IoT Connect Mobile Type S TSLプロファイル

⇒ [P.30～ 9. \[SIM1枚構成\(TSLプロファイル\)\] 接続設定](#)

■ SIM 1枚構成(NTTCプロファイル)でご利用の場合

SIM1 : IoT Connect Mobile Type S NTTCPロファイル

⇒ [P.42～ 10. \[SIM1枚構成\(NTTCプロファイル\)\] 接続設定](#)

8. [SIM2枚構成] 接続設定

8-1. 構成

本章では、IoT Connect Mobile Type S のSIM2枚（NTTプロファイル+TSLプロファイル）を使用した構成における設定手順を説明します。
構成のイメージを以下に示します。

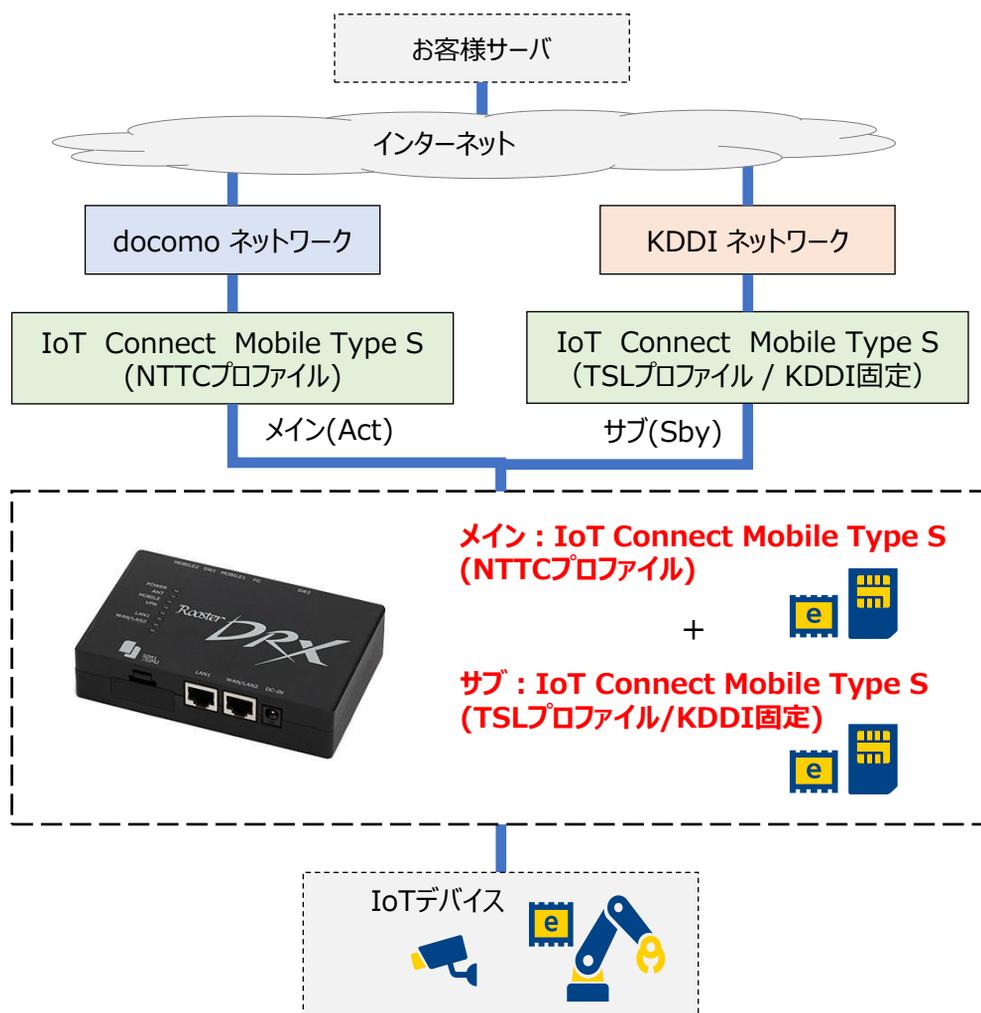
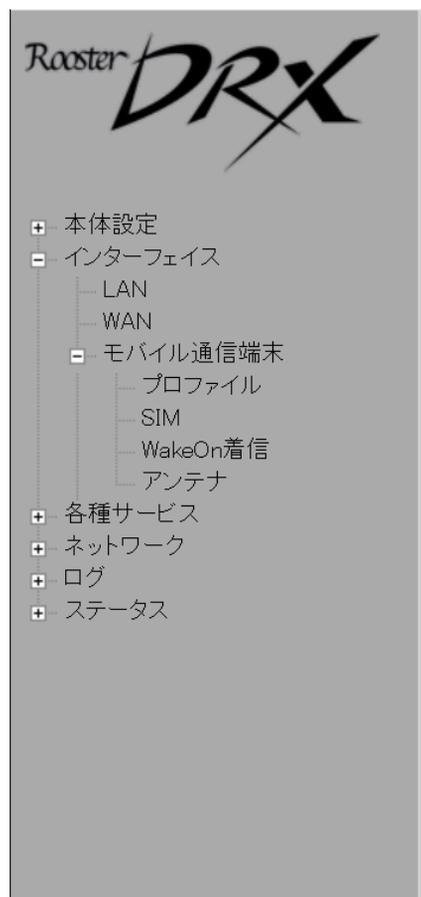


図 8-1. IoT Connect Mobile Type S SIM2枚構成

8. [SIM2枚構成] 接続設定

8-2. SIMカードスロット設定

- ① 設定ツールのメニューから、[インターフェイス] - [モバイル通信端末] - [SIM] をクリックします。「SIM カードスロット」のページが表示されます。



モバイル通信端末

モバイル通信端末の各設定を行います。

SIMカードスロット ①

- SIMカードスロットの設定を行います。

- SIM1スロットを有効にする。

通信事業者を選択: ローミング ②

MVNO:

PINコードを設定:

- ③ SIM2スロットを有効にする。

通信事業者を選択: ローミング ④

MVNO:

PINコードを設定:

設定 ⑤

- ② SIM1の [通信事業者を選択] のプルダウンから「ローミング」を選択します。
- ③ [SIM2 スロットを有効にする。] のチェックをオンにします。
- ④ SIM2の「通信事業者を選択」のプルダウンから「ローミング」を選択します。
- ⑤ [設定] ボタンをクリックします。

8. [SIM2枚構成] 接続設定

8-3. プロファイル設定

SIM1、SIM2 のモバイル設定を行います。

- ① 設定ツールのメニューから、
[インターフェイス] - [モバイル通信端末] - [プロファイル] をクリックします。
「プロファイル」のページが表示されます。

モバイル通信端末
モバイル通信端末の各設定を行います。

プロファイル **1**

■ プロファイルの設定を行います。

プロファイルを追加する: **2**

No.	APN	SIM番号	対象ネットワーク	メモ

デフォルトプロファイル:

バックアッププロファイルを使用する。

バックアッププロファイル:

- ② [プロファイルを追加する] にプロファイル番号「1」を入力し、[追加] ボタンをクリックします。「プロファイルの詳細設定」の画面が表示されます。

プロファイルの詳細設定

③ 以下のとおり設定します。

【ID】：空欄
【パスワード】：空欄

【APN】：ナレッジセンタよりご確認をお願いします。
https://sdpf.ntt.com/services/docs/icms/service-descriptions/technical_req/technical_requirement_s.html#/provision-conditions
→「端末設定/インターフェイス条件(NTTCプロファイル)」

【PDPタイプ】：IP
【認証プロトコル】：自動
【SIM番号】：1
【接続先事業者】：自動

【メモ】：任意に設定内容を分かりやすくするための覚え書きを入力できます。

④

- ④ [設定] ボタンをクリックして、設定内容を反映させます。

8. [SIM2枚構成] 接続設定

8-3. プロファイル設定

- ⑤ [プロファイルを追加する] にプロファイル番号「2」を入力し、[追加] ボタンをクリックします。「プロファイルの詳細設定」の画面が表示されます。

モバイル通信端末
モバイル通信端末の各設定を行います。

プロファイル

■ プロファイルの設定を行います。

プロファイルを追加する: ⑤

No.	APN	SIM番号	対象ネットワーク	メモ
1	mobiledata.ntt.com	1		

デフォルトプロファイル:

- ⑥ 以下のとおり設定します。

【ID】：空欄

【パスワード】：空欄

【APN】：ナレッジセンタよりご確認をお願いします。
https://sdpf.ntt.com/services/docs/icms/service-descriptions/technical_req/technical_requirement_s.html#/provision-conditions
→「端末設定/インターフェース条件(TSLプロファイルご利用時)」

【PDPタイプ】：IP

【認証プロトコル】：自動

【SIM番号】：2

【接続先事業者】：KDDI (440 51)

【メモ】：任意に設定内容を分かりやすくするための覚え書きを入力できます。

プロファイルの詳細設定

No.	<input type="text" value="2"/>
ID	<input type="text"/>
パスワード	<input type="text"/>
APN	<input type="text" value="mobile"/>
PDPタイプ	<input type="button" value="IP"/>
認証プロトコル	<input type="button" value="自動"/>
SIM番号	<input type="button" value="2"/>
接続先通信事業者	<input type="button" value="KDDI (440 51)"/> <small>SIMの通信事業者が「ローミング」の場合に適用</small>
メモ	<input type="text"/>

⑥

⑦

- ⑦ [設定] ボタンをクリックして、設定内容を反映させます。

8. [SIM2枚構成] 接続設定

8-4. プロファイル切り替え設定

SIMの切り替え設定をします。

- 1 設定ツールのメニューから、
[インターフェイス] - [モバイル通信端末] - [プロファイル] をクリックします。
「プロファイル」のページが表示されます。

モバイル通信端末

モバイル通信端末の各設定を行います。

プロファイル 1

- プロファイルの設定を行います。

プロファイルを追加する:

No.	APN	SIM番号	対象ネットワーク	メモ	操作
1	mobiledata.ntt.com	1		ICMS_NTTC	変更 削除
2	mobile	2		ICMS_TSL_KDDI	変更 削除

デフォルトプロファイル: 2

バックアッププロファイルを使用する。

バックアッププロファイル: 4

- 2 [デフォルトプロファイル] のプルダウンから [1] を選択します。
- 3 [バックアッププロファイルを使用する。] のチェックをオンにします。
- 4 [バックアッププロファイル] のプルダウンから [2] を選択します。
- 5 [切り替え条件] の項目で、
 - ・[SunDMS WANハートビートが指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。]
 - ・[監視先ホストへの通信が指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。]の2つの条件のうち1つを選択して設定します。

切り替え条件 5

- SunDMS WANハートビートが指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。

監視先ホスト:

監視間隔: 分

指定回数: 回

- 監視先ホストへの通信が指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。

監視先ホスト:

監視間隔: 秒

指定回数: 回

8. [SIM2枚構成] 接続設定

8-4. プロファイル切り替え設定

■ 監視先ホストにSunDMSを利用する場合

[SunDMS WANハートビートが指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。] のチェックをオンにし、以下を設定します。

監視先ホスト	デフォルトプロファイル設定のモバイル通信の健全性をping で監視するための「SunDMS WAN ハートビート」のドメイン名を指定します。
監視間隔	監視先ホストに対して監視を行う間隔（分）を指定します。 設定範囲：2～1440
指定回数	リトライする回数を指定します。 「監視先ホスト」に対して「監視間隔」でpingを実施し、「指定回数」連続で失敗した場合、プロファイルを切り替えます。 設定範囲：1～10

※ SunDMS WANハートビート機能は、SunDMS の有償プランでご利用いただけます。
SunDMS につきましては、別紙「SunDMSの機能とご利用方法」をご覧ください。

■ 監視先ホストに自前のマシンを利用する場合

[監視先ホストへの通信が指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。] のチェックをオンにし、以下を設定します。

監視先ホスト	デフォルトプロファイル設定のモバイル通信の健全性をping で監視するためのIPアドレス、もしくはドメイン名を指定します。 監視先ホストが応答しない場合、プロファイルを切り替えます。
監視間隔	監視先ホストに対して監視を行う間隔（秒）を指定します。 設定範囲：1～600
指定回数	リトライする回数を指定します。 「監視先ホスト」に対して「監視間隔」でpingを実施し、「指定回数」連続で失敗した場合、プロファイルを切り替えます。 設定範囲：1～10

監視先ホストへの通信が指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。

監視先ホスト：

監視間隔： 秒

指定回数： 回

アンテナレベルが基準以下の場合、プロファイルを切り替える。

基準：

判定時間： 分

6

設定

6 [設定] ボタンをクリックして、設定を反映させます。

8. 【SIM2枚構成】 接続設定

8-5. プロファイル切り戻し設定

プロファイル切り戻しの条件につきまして、以下の方法があります。

方法	処理	実行手順
切り戻しタイマー	自動	CLI(アドバンスドモード)でタイマー設定
システム再起動	手動	Web 設定画面もしくははCLI(アドバンスドモード)に接続し再起動操作
		SunDMS から再起動操作
		DRX5002 本体の物理的な電源入れ直し
	自動	電源制御機能による再起動

次ページ以降に設定・実行手順を記載します。

8. [SIM2枚構成] 接続設定

8-5. プロファイル切り戻し設定

■ 切り戻しのタイマー設定

切り戻しのタイマー設定をするためには「アドバンスドモード」に切り替える必要があります。アドバンスドモードはSSH で接続しCLI コマンドを実行することで各種設定を行うモードです。



アドバンスドモードへ一度移行するとWWW ブラウザでの設定はできなくなります。WWW ブラウザでの設定（シンプルモード）に戻るには端末の初期化が必要となります。シンプルモードで設定した内容はアドバンスドモードへ移行後も保持されます。シンプルモードで必要な設定を済ませてからアドバンスドモードに変更してください。

- ① 設定ツールのメニューから、[各種サービス] - [Web サービス] をクリックします。「Web サービス設定」のページが表示されます。

各種サービス

各種サービスの設定を行います。

Webサービス ①

- Webサービスの設定を行います。

アドバンスドモードに移行する。

移行

②

ポート番号: (1~65535)

LANポートからのアクセスを許可する。

外部からのアクセス

設定

- ② [アドバンスドモードに移行する] の [移行] ボタンをクリックします。
- ③ [OK] ボタンをクリックします。

192.186.62.1の内容

アドバンスドモードからシンプルモードに戻るには設定初期化が必要になります。アドバンスドモードに移行してよろしいですか？

③

OK

キャンセル

8. [SIM2枚構成] 接続設定

8-5. プロファイル切り戻し設定

- ④ 設定用PCから Tera Term 等のターミナルソフトにて、SSH接続します。



- ⑤ ログイン名とパスワードを入力して、DRX5002 にログインします。
工場出荷時の状態では、ログイン名に「root」、パスワードに「root」が設定されています。

```
login : root [?]      ←ログイン名を入力
password : root [?]  ←パスワードを入力 (非表示)
Welcome Rooster maintenance console.
system version : DRX50XX RoosterOS 2.X.X BX
```

- ⑥ 初期パスワードでログインした場合、パスワードの変更を促されます。
パスワードを変更する場合は、設定したいパスワードを2回入力します。

```
パスワードが初期設定のままとなっているため、パスワードの変更をお願いいたします。
安心・安全にご使用いただくために、変更をお願いしております。
新しいパスワード(8文字以上) : ←設定したいパスワードを入力 (非表示)
もう一度入力してください :    ←設定したいパスワードを再度入力 (非表示)
パスワードを変更しました。
current: OK
```

新しいパスワード入力中にCtrl+Cを入力することでパスワード変更せずに次へ進めます。

```
パスワードが初期設定のままとなっているため、パスワードの変更をお願いいたします。
安心・安全にご使用いただくために、変更をお願いしております。
新しいパスワード(8文字以上) : ←Ctrl+Cを入力
パスワード変更を延期します。
パスワードを変更できませんでした。
```

8. [SIM2枚構成] 接続設定

8-5. プロファイル切り戻し設定

- ⑦ プロファイル切り戻しのトリガ設定を実行します。
下記サンプルを参考に、以下の項目はご利用環境に合わせた値を設定し実行してください。
- ・ event (SunDMS利用 : sundms-heartbeat / 自前ホスト利用 : heartbeat)
 - ・ 「SunDMS WANハートビートのドメイン名」もしくは「監視先ホストのIPアドレス」
 - ・ ping通信の間隔 (SunDMS利用 : 2~1440 [分] / 自前ホスト利用 : 1~600 [秒])
 - ・ ping通信の試行回数 (1~10 [回])
 - ・ プロファイル切り戻し待ち時間 (1~3600 [秒])

↓プロファイル切り替えの条件を指定します

```
RoosterOS> set trigger sample1 event <sundms-heartbeat or heartbeat>  
dest-ip <SunDMS WANハートビートのドメイン名 or 監視先ホストのIPアドレス>  
interface mobile1 mode unreachable  
interval <ping 通信の間隔> threshold <ping 通信の試行回数> timeout 3
```

↓プロファイル切り替えのトリガを無効にします

```
RoosterOS> set trigger sample1 action 1 trigger sample1 disable
```

↓切り替え先のプロファイルを指定します

```
RoosterOS> set trigger sample1 action 2 switch-profile 2
```

↓切り戻し待ち時間を指定します

waitコマンドは複数設定可能です

waitコマンドを複数設定する場合は、actionのNoをスライドさせてください

```
RoosterOS> set trigger sample1 action 3 wait <切り戻し待ち時間>
```

↓切り戻し先のプロファイルを指定します

```
RoosterOS> set trigger sample1 action 4 switch-profile 1
```

↓プロファイルが切り替わるまで300秒待機します

```
RoosterOS> set trigger sample1 action 5 wait 300
```

↓プロファイル切り替えのトリガを有効にします

```
RoosterOS> set trigger sample1 action 6 trigger sample1 enable
```

↓上記の設定を不揮発性メモリに書き込みます

```
RoosterOS> save config
```

↓設定を有効にします

```
RoosterOS> apply config
```

CLIコマンドの詳細は、下記メーカーサイトにて「Rooster DRX CLI 設定機能説明書」をご覧ください。

<https://www.sun-denshi.co.jp/sc/down.html>

8. [SIM2枚構成] 接続設定

8-5. プロファイル切り戻し設定

<設定例>

以下条件でのプロファイル切り戻しのトリガ設定コマンドについて、サンプルを記載します。

[処理概要]

サーバ 8.8.8.8 に対して、60秒間隔でPing送信を行い、応答が2回失敗したときにプロファイルの切り替えを行い、プロファイル切り替え後 7,200秒（2時間）が経過したらデフォルトプロファイルに切り戻しを実行する

- ・ event : heartbeat
- ・ 監視先ホストのIPアドレス : 8.8.8.8
- ・ ping通信の間隔 : 60 [秒]
- ・ ping通信の試行回数 : 2 [回]
- ・ プロファイル切り戻し待ち時間 : 7200 [秒]

※あくまでサンプルであり切り戻し後の接続を保証するものではありません。

```
RoosterOS> set trigger sample1 event heartbeat dest-ip 8.8.8.8
interface mobile1 mode unreachable interval 60 threshold 2 timeout 3

RoosterOS> set trigger sample1 action 1 trigger sample1 disable

RoosterOS> set trigger sample1 action 2 switch-profile 2

RoosterOS> set trigger sample1 action 3 wait 3600

RoosterOS> set trigger sample1 action 4 wait 3600

RoosterOS> set trigger sample1 action 5 switch-profile 1

RoosterOS> set trigger sample1 action 6 wait 300

RoosterOS> set trigger sample1 action 7 trigger sample1 enable

RoosterOS> save config

RoosterOS> apply config
```

8. [SIM2枚構成] 接続設定

8-5. プロファイル切り戻し設定

■ システム再起動

(1) Web画面での再起動

- ① 設定ツールのメニューから、[本体設定] - [再起動] をクリックします。
「再起動」ページが表示されます。
- ② [再起動] ボタンをクリックします。

本体設定

本体の各設定を行います。

再起動

- 本体を再起動させます。

再起動ボタンを押すと、本体が再起動します。

再起動

(2) CLI (アドバンスドモード) での再起動

[P.47 CLI \(アドバンスドモード\) での再起動](#) をご覧ください。

(3) SunDMSからの再起動

別紙「SunDMSの機能とご利用方法」をご覧ください。

(4) 電源制御機能による再起動

[P. 46 ソフトウェアによる再起動](#) をご覧ください。

9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定

9-1. 構成

本章では、IoT Connect Mobile Type S TSLプロファイルのSIM1枚を使用した構成における設定手順を説明します。

構成のイメージを以下に示します。

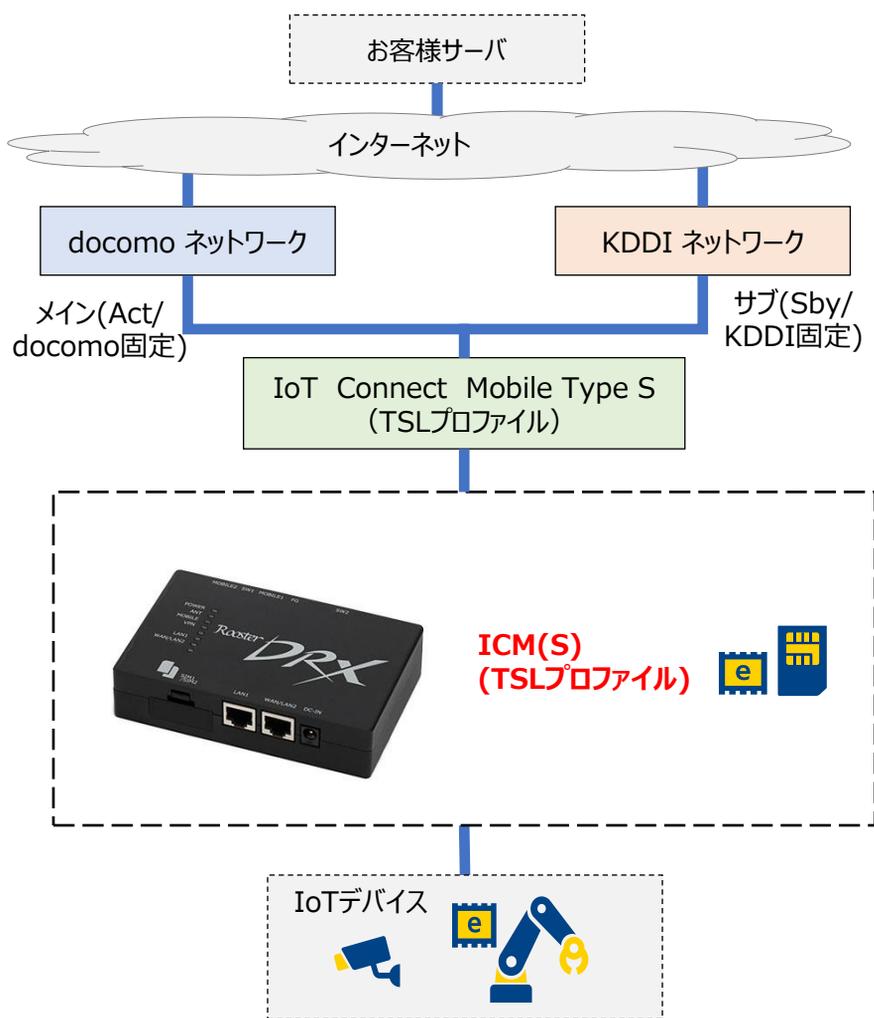


図 9-1. IoT Connect Mobile Type S TSLプロファイル SIM1枚構成

9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定

9-2. SIMカードスロット設定

- ① 設定ツールのメニューから、[インターフェイス] - [モバイル通信端末] - [SIM] をクリックします。「SIM カードスロット」のページが表示されます。

モバイル通信端末

モバイル通信端末の各設定を行います。

SIMカードスロット ①

- SIMカードスロットの設定を行います。

SIM1スロットを有効にする。

通信事業者を選択: ローミング ②

MVNO:

PINコードを設定:

SIM2スロットを有効にする。

通信事業者を選択: ローミング

MVNO:

PINコードを設定:

設定 ③

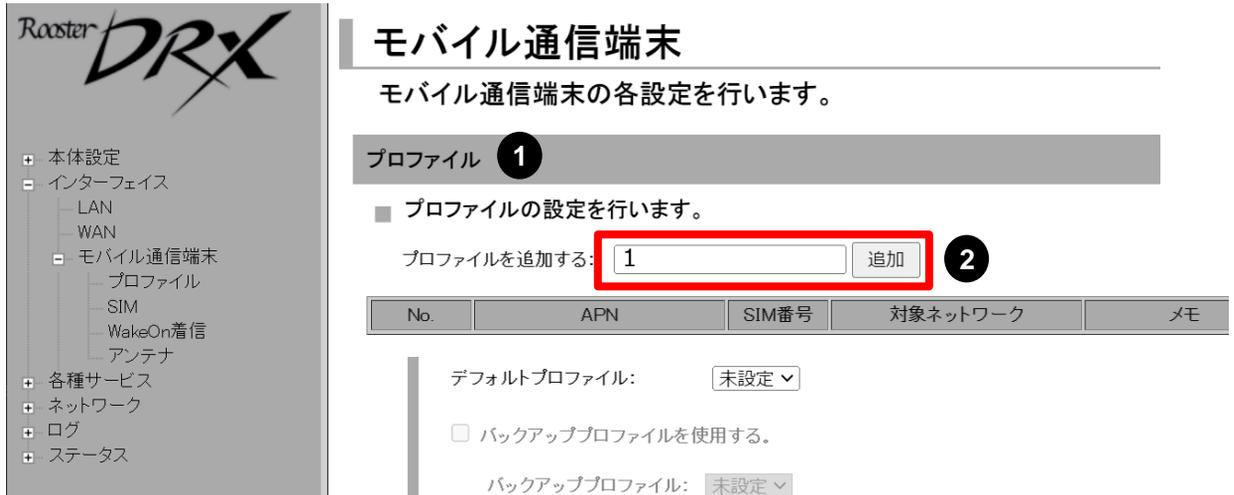
- ② SIM1の [通信事業者を選択] のプルダウンから「ローミング」を選択します。
- ③ [設定] ボタンをクリックします。

9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定

9-3. プロファイル設定

SIM1 のモバイル設定を行います。

- ① 設定ツールのメニューから、
[インターフェイス] - [モバイル通信端末] - [プロファイル] をクリックします。
「プロファイル」のページが表示されます。



- ② [プロファイルを追加する] にプロファイル番号「1」を入力し、[追加] ボタンをクリックします。「プロファイルの詳細設定」の画面が表示されます。

プロファイルの詳細設定

No.	1
ID	
パスワード	
APN	mobile
PDPタイプ	IP
認証プロトコル	自動
SIM番号	1
接続先通信事業者	ドコモ (440 10) <small>SIMの通信事業者が「ローミング」の場合に適用</small>
メモ	ICMS_TSL_docomo

- ③ 以下のとおり設定します。

【ID】：空欄
【パスワード】：空欄

【APN】：ナレッジセンタよりご確認をお願いします。
<https://sdpf.ntt.com/services/icms/>
「詳細情報」のタブ
→ 「3.1.技術要件・端末設定等」
→ 「端末設定/インターフェース条件(TSLプロファイルご利用時)」

【PDPタイプ】：IP
【認証プロトコル】：自動
【SIM番号】：1
【接続先事業者】：ドコモ (440 10)

【メモ】：任意に設定内容を分かりやすくするための覚え書きを入力できます。

④ [設定] ボタンをクリックして、設定内容を反映させます。

- ④ [設定] ボタンをクリックして、設定内容を反映させます。

9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定

9-3. プロファイル設定

- ⑤ [プロファイルを追加する] にプロファイル番号「2」を入力し、[追加] ボタンをクリックします。「プロファイルの詳細設定」の画面が表示されます。

モバイル通信端末

モバイル通信端末の各設定を行います。

プロファイル

- プロファイルの設定を行います。

プロファイルを追加する: ⑤

No.	APN	SIM番号	対象ネットワーク	メモ	操作
1	mobile	1		ICMS_TSL_docomo	変更 削除

デフォルトプロファイル: ▼

バックアッププロファイルを使用する。

- ⑥ 以下のとおり設定します。

【ID】 : 空欄

【パスワード】 : 空欄

【APN】 : ナレッジセンタよりご確認をお願いします。

<https://sdpf.ntt.com/services/icms/>

「詳細情報」のタブ

→ 「3.1.技術要件・端末設定等」

→ 「端末設定/インターフェース条件(TSLプロファイルご利用時)」

【PDPタイプ】 : IP

【認証プロトコル】 : 自動

【SIM番号】 : 1

【接続先事業者】 : KDDI (440 51)

【メモ】 : 任意に設定内容を分かりやすくするための覚え書きを入力できます。

プロファイルの詳細設定

No.	<input type="text" value="2"/>
ID	<input type="text"/>
パスワード	<input type="text"/>
APN	<input type="text" value="mobile"/>
PDPタイプ	<input type="text" value="IP"/> ▼
認証プロトコル	<input type="text" value="自動"/> ▼
SIM番号	<input type="text" value="1"/> ▼
接続先通信事業者	<input type="text" value="KDDI (440 51)"/> ▼ <small>SIMの通信事業者が「ローミング」の場合に適用</small>
メモ	<input type="text" value="ICMS_TSL_KDDI"/>

⑦

- ⑦ [設定] ボタンをクリックして、設定内容を反映させます。

9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定

9-4. プロファイル切り替え設定

プロファイルの切り替え設定をします。

- 1 設定ツールのメニューから、
[インターフェイス] - [モバイル通信端末] - [プロファイル] をクリックします。
「プロファイル」のページが表示されます。

モバイル通信端末

モバイル通信端末の各設定を行います。

プロファイル 1

- プロファイルの設定を行います。

プロファイルを追加する:

No.	APN	SIM番号	対象ネットワーク	メモ	操作
1	mobile	1		ICMS_TSL_docomo	変更 削除
2	mobile	1		ICMS_TSL_KDDI	変更 削除

デフォルトプロファイル: 2

3 バックアッププロファイルを使用する。

バックアッププロファイル: 4

- 2 [デフォルトプロファイル] のプルダウンから [1] を選択します。
- 3 [バックアッププロファイルを使用する。] のチェックをオンにします。
- 4 [バックアッププロファイル] のプルダウンから [2] を選択します。
- 5 [切り替え条件] の項目で、
 - ・[SunDMS WANハートビートが指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。]
 - ・[監視先ホストへの通信が指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。]の2つの条件のうち1つを選択して設定します。

切り替え条件 5

- SunDMS WANハートビートが指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。

監視先ホスト:

監視間隔: 分

指定回数: 回

- 監視先ホストへの通信が指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。

監視先ホスト:

監視間隔: 秒

指定回数: 回

9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定

9-4. プロファイル切り替え設定

■ 監視先ホストにSunDMSを利用する場合

[SunDMS WANハートビートが指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。] のチェックをオンにし、以下を設定します。

監視先ホスト	デフォルトプロファイル設定のモバイル通信の健全性をping で監視するための「SunDMS WAN ハートビート」のドメイン名を指定します。
監視間隔	監視先ホストに対して監視を行う間隔（分）を指定します。 設定範囲：2～1440
指定回数	リトライする回数を指定します。 「監視先ホスト」に対して「監視間隔」でpingを実施し、「指定回数」連続で失敗した場合、プロファイルを切り替えます。 設定範囲：1～10

※ SunDMS WANハートビート機能は、SunDMS の有償プランでご利用いただけます。
SunDMS につきましては、別紙「SunDMSの機能とご利用方法」をご覧ください。

■ 監視先ホストに自前のマシンを利用する場合

[監視先ホストへの通信が指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。] のチェックをオンにし、以下を設定します。

監視先ホスト	デフォルトプロファイル設定のモバイル通信の健全性をping で監視するためのIPアドレス、もしくはドメイン名を指定します。 監視先ホストが応答しない場合、プロファイルを切り替えます。
監視間隔	監視先ホストに対して監視を行う間隔（秒）を指定します。 設定範囲：1～600
指定回数	リトライする回数を指定します。 「監視先ホスト」に対して「監視間隔」でpingを実施し、「指定回数」連続で失敗した場合、プロファイルを切り替えます。 設定範囲：1～10

監視先ホストへの通信が指定回数連続で失敗したら、プロファイルを切り替える。

監視先ホスト：

監視間隔： 秒

指定回数： 回

アンテナレベルが基準以下の場合、プロファイルを切り替える。

基準：

判定時間： 分

6

設定

6 [設定] ボタンをクリックして、設定を反映させます。

9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定

9-5. プロファイル切り戻し設定

プロファイル切り戻しの条件につきまして、以下の方法があります。

方法	処理	実行手順
切り戻しタイマー	自動	CLI(アドバンスドモード)でタイマー設定
システム再起動	手動	Web 設定画面もしくははCLI(アドバンスドモード)に接続し再起動操作
		SunDMS から再起動操作
		DRX5002 本体の物理的な電源入れ直し
	自動	電源制御機能による再起動

次ページ以降に設定・実行手順を記載します。

9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定

9-5. プロファイル切り戻し設定

■ 切り戻しのタイマー設定

切り戻しのタイマー設定をするためには「アドバンスドモード」に切り替える必要があります。アドバンスドモードはSSH で接続しCLI コマンドを実行することで各種設定を行うモードです。



アドバンスドモードへ一度移行するとWWW ブラウザでの設定はできなくなります。WWW ブラウザでの設定（シンプルモード）に戻るには端末の初期化が必要となります。シンプルモードで設定した内容はアドバンスドモードへ移行後も保持されます。シンプルモードで必要な設定を済ませてからアドバンスドモードに変更してください。

- ① 設定ツールのメニューから、[各種サービス] - [Web サービス] をクリックします。「Web サービス設定」のページが表示されます。

各種サービス

各種サービスの設定を行います。

Webサービス ①

- Webサービスの設定を行います。

アドバンスドモードに移行する。

移行

②

ポート番号: (1~65535)

LANポートからのアクセスを許可する。

外部からのアクセス

設定

- ② [アドバンスドモードに移行する] の [移行] ボタンをクリックします。
- ③ [OK] ボタンをクリックします。

192.186.62.1の内容

アドバンスドモードからシンプルモードに戻るには設定初期化が必要になります。アドバンスドモードに移行してよろしいですか？

③

OK

キャンセル

9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定

9-5. プロファイル切り戻し設定

- ④ 設定用PCから Tera Term 等のターミナルソフトにて、SSH接続します。



- ⑤ ログイン名とパスワードを入力して、DRX5002 にログインします。
工場出荷時の状態では、ログイン名に「root」、パスワードに「root」が設定されています。

```
login : root [?]      ←ログイン名を入力
password : root [?]  ←パスワードを入力 (非表示)
Welcome Rooster maintenance console.
system version : DRX50XX RoosterOS 2.X.X BX
```

- ⑥ 初期パスワードでログインした場合、パスワードの変更を促されます。
パスワードを変更する場合は、設定したいパスワードを2回入力します。

```
パスワードが初期設定のままとなっているため、パスワードの変更をお願いいたします。
安心・安全にご使用いただくために、変更をお願いしております。
新しいパスワード(8文字以上) : ←設定したいパスワードを入力 (非表示)
もう一度入力してください :    ←設定したいパスワードを再度入力 (非表示)
パスワードを変更しました。
current: OK
```

新しいパスワード入力中にCtrl+Cを入力することでパスワード変更せずに次へ進めます。

```
パスワードが初期設定のままとなっているため、パスワードの変更をお願いいたします。
安心・安全にご使用いただくために、変更をお願いしております。
新しいパスワード(8文字以上) : ←Ctrl+Cを入力
パスワード変更を延期します。
パスワードを変更できませんでした。
```

9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定

9-5. プロファイル切り戻し設定

- ⑦ プロファイル切り戻しのトリガ設定を実行します。
下記サンプルを参考に、以下の項目はご利用環境に合わせた値を設定し実行してください。
- ・ event (SunDMS利用 : sundms-heartbeat / 自前ホスト利用 : heartbeat)
 - ・ 「SunDMS WANハートビートのドメイン名」もしくは「監視先ホストのIPアドレス」
 - ・ ping通信の間隔 (SunDMS利用 : 2~1440 [分] / 自前ホスト利用 : 1~600 [秒])
 - ・ ping通信の試行回数 (1~10 [回])
 - ・ プロファイル切り戻し待ち時間 (1~3600 [秒])

↓プロファイル切り替えの条件を指定します

```
RoosterOS> set trigger sample1 event <sundms-heartbeat or heartbeat>  
dest-ip <SunDMS WANハートビートのドメイン名 or 監視先ホストのIPアドレス>  
interface mobile1 mode unreachable  
interval <ping 通信の間隔> threshold <ping 通信の試行回数> timeout 3
```

↓プロファイル切り替えのトリガを無効にします

```
RoosterOS> set trigger sample1 action 1 trigger sample1 disable
```

↓切り替え先のプロファイルを指定します

```
RoosterOS> set trigger sample1 action 2 switch-profile 2
```

↓切り戻し待ち時間を指定します

waitコマンドは複数設定可能です

waitコマンドを複数設定する場合は、actionのNoをスライドさせてください

```
RoosterOS> set trigger sample1 action 3 wait <切り戻し待ち時間>
```

↓切り戻し先のプロファイルを指定します

```
RoosterOS> set trigger sample1 action 4 switch-profile 1
```

↓プロファイルが切り替わるまで300秒待機します

```
RoosterOS> set trigger sample1 action 5 wait 300
```

↓プロファイル切り替えのトリガを有効にします

```
RoosterOS> set trigger sample1 action 6 trigger sample1 enable
```

↓上記の設定を不揮発性メモリに書き込みます

```
RoosterOS> save config
```

↓設定を有効にします

```
RoosterOS> apply config
```

CLIコマンドの詳細は、下記メーカーサイトにて「Rooster DRX CLI 設定機能説明書」をご覧ください。

<https://www.sun-denshi.co.jp/sc/down.html>

9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定

9-5. プロファイル切り戻し設定

<設定例>

以下条件でのプロファイル切り戻しのトリガ設定コマンドについて、サンプルを記載します。

[処理概要]

サーバ 8.8.8.8 に対して、60秒間隔でPing送信を行い、応答が2回失敗したときにプロファイルの切り替えを行い、プロファイル切り替え後 7,200秒（2時間）が経過したらデフォルトプロファイルに切り戻しを実行する

- ・ event : heartbeat
- ・ 監視先ホストのIPアドレス : 8.8.8.8
- ・ ping通信の間隔 : 60 [秒]
- ・ ping通信の試行回数 : 2 [回]
- ・ プロファイル切り戻し待ち時間 : 7200 [秒]

※あくまでサンプルであり切り戻し後の接続を保証するものではありません。

```
RoosterOS> set trigger sample1 event heartbeat dest-ip 8.8.8.8
interface mobile1 mode unreachable interval 60 threshold 2 timeout 3

RoosterOS> set trigger sample1 action 1 trigger sample1 disable

RoosterOS> set trigger sample1 action 2 switch-profile 2

RoosterOS> set trigger sample1 action 3 wait 3600

RoosterOS> set trigger sample1 action 4 wait 3600

RoosterOS> set trigger sample1 action 5 switch-profile 1

RoosterOS> set trigger sample1 action 6 wait 300

RoosterOS> set trigger sample1 action 7 trigger sample1 enable

RoosterOS> save config

RoosterOS> apply config
```

9. [SIM1枚構成(TSLプロファイル)] 接続設定

9-5. プロファイル切り戻し設定

■ システム再起動

(1) Web画面での再起動

- ① 設定ツールのメニューから、[本体設定] - [再起動] をクリックします。
「再起動」ページが表示されます。
- ② [再起動] ボタンをクリックします。

本体設定

本体の各設定を行います。

再起動

- 本体を再起動させます。

再起動ボタンを押すと、本体が再起動します。

再起動

(2) CLI (アドバンスドモード) での再起動

[P.47 CLI \(アドバンスドモード\) での再起動](#) をご覧ください。

(3) SunDMSからの再起動

別紙「SunDMSの機能とご利用方法」をご覧ください。

(4) 電源制御機能による再起動

[P. 46 ソフトウェアによる再起動](#) をご覧ください。

10. [SIM1枚構成(NTTCプロファイル)] 接続設定

10-1. 構成

本章では、IoT Connect Mobile Type S NTTCPロファイルのSIM1枚を使用した構成における設定手順を説明します。

構成のイメージを以下に示します。

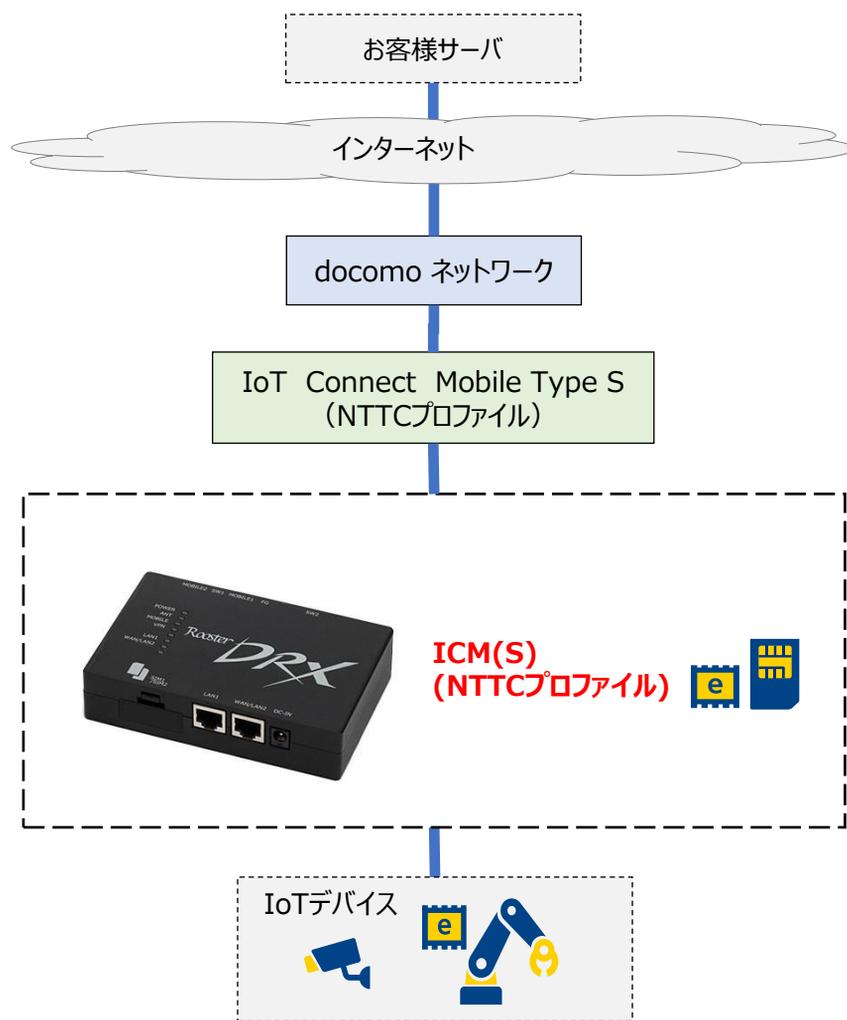


図 10-1. IoT Connect Mobile Type S NTTCPロファイル SIM1枚構成

10. [SIM1枚構成(NTTCプロファイル)] 接続設定

10-2. SIMカードスロット設定

- ① 設定ツールのメニューから、[インターフェイス] - [モバイル通信端末] - [SIM] をクリックします。「SIM カードスロット」のページが表示されます。

モバイル通信端末

モバイル通信端末の各設定を行います。

SIMカードスロット ①

- SIMカードスロットの設定を行います。

SIM1スロットを有効にする。

通信事業者を選択: ローミング ▼ ②

MVNO:

PINコードを設定:

SIM2スロットを有効にする。

通信事業者を選択: ローミング ▼

MVNO:

PINコードを設定:

設定 ③

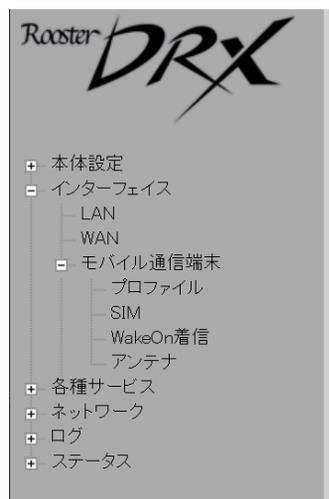
- ② SIM1の [通信事業者を選択] のプルダウンから「ローミング」を選択します。
- ③ [設定] ボタンをクリックします。

10. [SIM1枚構成(NTTCプロファイル)] 接続設定

10-3. プロファイル設定

SIM1 のモバイル設定を行います。

- ① 設定ツールのメニューから、
[インターフェイス] - [モバイル通信端末] - [プロファイル] をクリックします。
「プロファイル」のページが表示されます。



Rooster DRX

- 本体設定
- インターフェイス
 - LAN
 - WAN
- モバイル通信端末
 - プロファイル
 - SIM
 - WakeOn着信
 - アンテナ
- 各種サービス
- ネットワーク
- ログ
- ステータス

モバイル通信端末

モバイル通信端末の各設定を行います。

プロファイル ①

■ プロファイルの設定を行います。

プロファイルを追加する: ②

No.	APN	SIM番号	対象ネットワーク	メモ

デフォルトプロファイル:

バックアッププロファイルを使用する。

バックアッププロファイル:

- ② [プロファイルを追加する] にプロファイル番号「1」を入力し、[追加] ボタンをクリックします。「プロファイルの詳細設定」の画面が表示されます。

プロファイルの詳細設定

No.	<input type="text" value="1"/>
ID	<input type="text"/>
パスワード	<input type="text"/>
APN	<input type="text"/>
PDPタイプ	<input type="button" value="IP"/>
認証プロトコル	<input type="button" value="自動"/> ③
SIM番号	<input type="button" value="1"/>
接続先通信事業者	<input type="button" value="自動"/> <small>SIMの通信事業者が「ローミング」の場合に適用</small>
メモ	<input type="text"/>

④

- ③ 以下のとおり設定します。

【ID】 : 空欄
【パスワード】 : 空欄

【APN】 : ナレッジセンタよりご確認をお願いします。
https://sdpf.ntt.com/services/docs/icms/service-descriptions/technical_req/technical_requirement_s.html#/provision-conditions
→ 「端末設定/インターフェイス条件(NTTCプロファイル)」

【PDPタイプ】 : IP
【認証プロトコル】 : 自動
【SIM番号】 : 1
【接続先事業者】 : 自動

【メモ】 : 任意に設定内容を分かりやすくするための覚え書きを入力できます。

- ④ [設定] ボタンをクリックして、設定内容を反映させます。

1 1. その他機能設定

●モバイル通信端末のステータス確認方法

(1) Web画面での確認方法

設定ツールのメニューから、[ステータス] - [モバイル通信端末] をクリックします。「モバイル通信端末ステータス」のページが表示され、現在接続している回線の状況を確認できます。

ステータス

現在の設定・状態を表示します。

モバイル通信端末

- モバイル通信端末の通信状態を表示します。

プロフィール名	接続先 情報	接続先 メモ	ステータス	操作
1	xxx.ne.jp xxx@xx.ne.jp	xxxx	接続完了 詳細表示	切断 無効

(2) CLI (アドバンスモード) での確認方法

- ① 設定用PCから Tera Term 等のターミナルソフトにて、SSH接続します。
- ② ログイン名とパスワードを入力して、DRX5002 にログインします。
工場出荷時の状態では、ログイン名に「root」、パスワードに「root」が設定されています。
- ③ モバイル通信のステータス確認コマンドを実行します。

```
RoosterOS> show status mobile
```

```
Mobile communication service status
```

```
-----  
Status          : Connected.  
Profile No.     : 1  
APN             : mobiledata.ntt.com  
User           :  
Carrier        : nttdocomo  
Memo           :  
IP address     : xxx.xxx.xxx.xxx  
  
TX bytes       : xxxxxx  
TX packets     : xxxxxx  
TX errors      : xxxxxx  
RX bytes       : xxxxxx  
RX packets     : xxxxxx  
RX errors      : xxxxxx
```

1 1. その他機能設定

メモリーリーク等によるハングアップの防止のため、定期的な再起動の設定が可能です。

●ハードウェアによる再起動

ソフトウェアの状態にかかわらず、ハードウェア管理で確実に再起動を行います。ソフトウェア設定が何らかの影響で動作しなかった場合の保険的な機能として、まずはソフトウェア設定が動作するように設定し、その後ハードウェア設定が動作するように設定することをおすすめします。

1~7日の指定した日にち間隔で再起動します。回線がつながっている状態でも、設定時刻になると再起動が行われます。(実際の動作時間(間隔)は多少前後します)

●ソフトウェアによる再起動

ソフトウェア管理で再起動を行います。(本製品のOSで管理する)
曜日と時刻を指定した設定や、24時間ごとの再起動を設定できるため、システム上影響のないタイミングで本製品を再起動することができます。

【設定画面】設定ツールのメニューから「本体設定」→「電源制御」をクリックします。

本体設定

本体の各設定を行います。

電源制御

■ 自動電源ON/OFFの設定を行います。

ハードウェアの自動電源ON/OFF機能を使用する。

間隔: 1日

再起動時刻を指定

00 時 00 分 (00時00分~23時59分)

ソフトウェアの自動電源ON/OFF機能を使用する。

再起動時刻: 00 時 00 分 (00時00分~23時59分)

再起動時間を分散する

分散時間: 分 (1~120)

間隔指定

間隔: 1日

曜日指定

:月 :火 :水 :木

:金 :土 :日

設定

アドバンスドモードのCLIコマンドは、下記メーカーサイトにて「Rooster DRX CLI 設定機能説明書」をご覧ください。

<https://www.sun-denshi.co.jp/sc/down.html>

1 1. その他機能設定

●CLI (アドバンスドモード) での再起動

- ① 設定用PCから Tera Term 等のターミナルソフトにて、SSH接続します。
- ② ログイン名とパスワードを入力して、DRX5002 にログインします。
工場出荷時の状態では、ログイン名に「root」、パスワードに「root」が設定されています。
- ③ 下記いずれかの再起動コマンドを実行します。

<通信モジュールの再起動 (デフォルトプロファイルに切り戻す場合も含む) >

```
RoosterOS> reset mobile
```

<DRX5002 の再起動>

```
RoosterOS> reset system
```

●ランプ点灯・点滅パターン

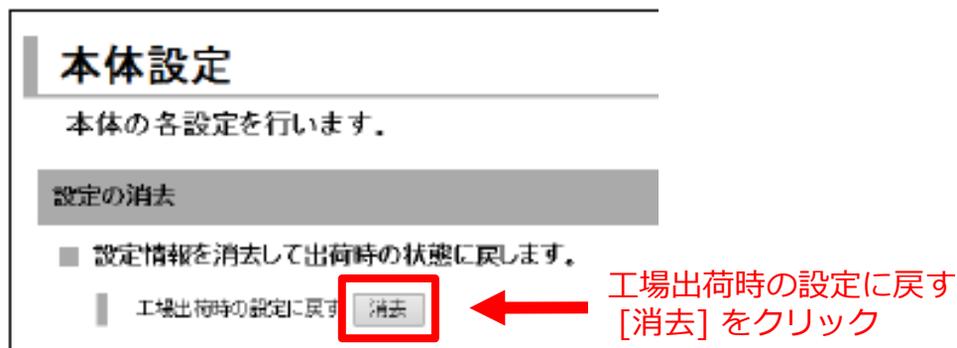
名称	ランプ状態	端末状態
POWER	点灯	電源が入っていて、使用可能な状態です。
	点滅	起動中、またはおやすみモードへの移行中です。
	遅い点滅	おやすみモード中です。
	消灯	電源が入っていません。
VPN	点灯	VPN 接続が確立された状態です。
	消灯	VPN 接続が行われておりません。
MOBILE	点灯	接続が確立された状態です。
	点滅	接続を試行している状態です。
	消灯	接続が行われていません。
ANT	点灯	モバイル通信圏内 (電波4: -101dBm 以上)
	点滅	モバイル通信圏内 (電波3: -113~-103dBm)
	点滅	モバイル通信圏内 (電波2: -121~-115dBm)
	点灯	モバイル通信圏内 (電波1: -131~-123dBm)
	消灯	モバイル通信圏外 (電波0: -131dBm 未満)、モバイル通信未使用
LAN・WAN	早い点滅	データが流れています。
	点灯	リンクしています。
	消灯	リンクしていません。

1 1. その他機能設定

●初期化（工場出荷時状態）する操作方法

（1）Web画面での初期化方法

設定ツールのメニューから、[本体設定]－「設定の消去」をクリックします。



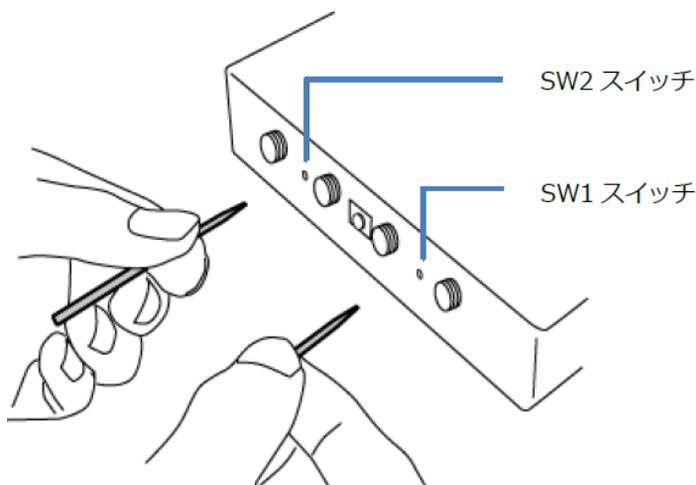
確認ダイアログで [OK] をクリックすると、DRX5002 が再起動し、設定が工場出荷時の状態にリセットされます。

（2）本体スイッチでの初期化方法

DRX5002 本体にあるSW1及びSW2を同時に3秒以上長押しします。

3秒以上長押しするとLEDが一旦全点灯（ANT 赤以外）した後、WLAN ランプ、VPN ランプ、MOBILE ランプ、ANT 緑ランプの順で消灯し、工場出荷時の設定に戻り、再起動します。

※ アドバンスモード（CLI）に移行後はこちらの方法で初期化できます。



1 1. その他機能設定

●ファームウェアのアップデート方法

(1) Web画面での操作方法

- ① 「本体設定」⇒「ファームウェアアップデート」をクリックし、現在のバージョンを確認します。



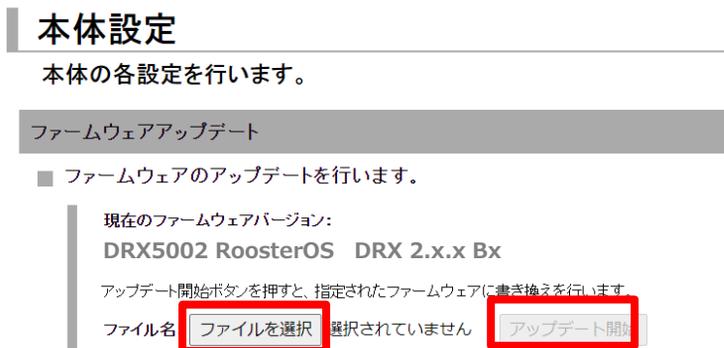
- ② 新しいファームウェアを以下サイトにて確認し、ダウンロードします。

<https://www.sun-denshi.co.jp/sc/down.html>



DRX5002の最新のファームウェアバージョンをクリックし、ダウンロードします。

- ③ 上記 ① の設定画面より、ダウンロードしたアップデートプログラムデータ「*.rsys」を指定しアップデートします。



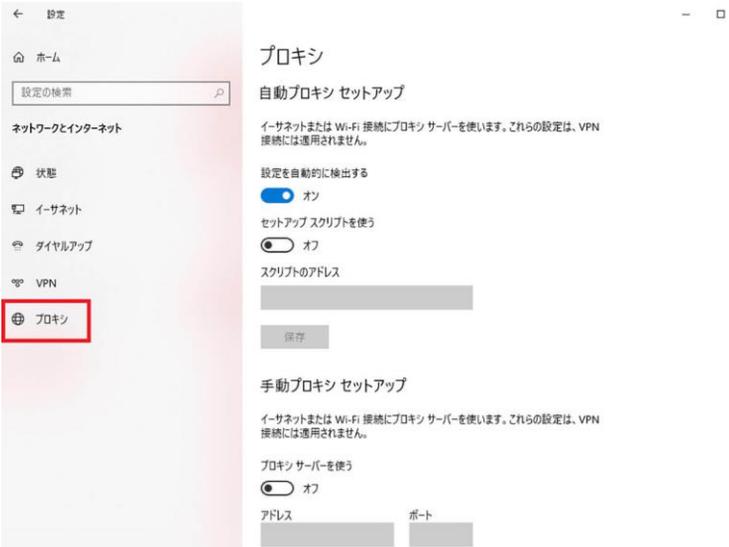
[ファイルを選択]をクリックし、アップデートプログラムデータ「*.rsys」を指定して、[アップデート開始]をクリックします。

※ アップデート中は絶対にDRX5002の電源を切らないようにしてください

(2) SunDMSでの操作方法

別紙「SunDMSの機能とご利用方法」をご覧ください。

12. 困ったときには

症状	確認項目
ネットワークに接続できない	圏外で使用していませんか？ ●ユーティリティの電波状態を確認し、サービスエリア内で接続を行ってください。
	接続設定に誤りはありませんか？ ●接続設定のユーザID、パスワードおよびネットワーク接続サービスの接続先（APN）を確認してください。
ネットワーク接続がすぐに切断される	モバイル端末が正しく設定されていますか？ ●モバイル端末とパソコンが正しく接続されていることを確認してください。
	電波状態は安定していますか？ ●電波状態が良くない場合があります。電波状態が良いところで確認してください。
ネットワーク速度が安定しない	電波状態は安定していますか？ ●電波状態が良くない場合があります。電波状態が良いところで確認してください。
本体の設定画面にログインできない	<ul style="list-style-type: none"> 設定を行うパソコン等と本体が接続されていることを確認してください。接続されていない場合は、LANケーブルで接続してください。 設定画面にログインするためのユーザー名やパスワードが正しいか確認してください。 Internet ExplorerなどのWebブラウザがプロキシを使用しない設定になっているか確認してください。 設定を行う本体のIPアドレスが正しく設定されているかを確認してください。
社内LAN経由（Proxyサーバー経由）でインターネット接続ができない。	<p>Windowsのプロキシ設定でお客様のプロキシサーバーの設定が必要です。</p> <p>Windows 10 の「スタートメニュー」→「設定」→「ネットワークとインターネット」 →「プロキシ」から設定してください。</p> 

13. お問い合わせ窓口

■ SIMに関するお問い合わせ

ポータル画面からチケットにてお受けしております。

受付時間	24時間365日
対応時間	平日 10:00~17:30 (JST / 土日祝日、年末年始を除く)

※チケットの起票方法は以下を参照ください。

<https://sdpf.ntt.com/services/docs/icms/tutorials/ticket/ticket.html#/>

■ 端末の設定・操作方法に関するお問い合わせ

電話にてお受けしております。

あらかじめ下記情報をご準備の上、お問い合わせをお願いします。

- ・お客様の端末のIMEI番号
IMEI番号は装置に貼付したシールに記載されています。
- ・モバイル通信ステータス
[P.45 モバイル通信端末のステータス確認方法](#) の手順でご確認をお願いします。

※接続の初期設定、端末操作方法について、サポート範囲は本書に記載の内容に限ります。

受付電話番号	 0120-561-749
受付時間	端末操作 平日 9:00~18:00 (JST / 土日祝日、年末年始を除く) 端末故障 平日 9:00~20:00 (JST / 土日祝日、年末年始を除く)

■ 同梱物の欠品に関するお問い合わせ

営業担当へご連絡をお願いします。

【ICMS】DRX5002 接続ガイド

2023年11月 第1.1版発行
発行 NTTコミュニケーションズ株式会社
©2023 NTT Communications
本書の無断複写複製(コピー)・転載を禁じます。